

山根基世著「作品に潜む肉声」図書 2009年10月号岩波書店刊を読む

声を出す前の黙読の重要性——黙読百回——

1. (1) 朗読というと声を出して読むことだけを思い浮かべるが、実は声を出す前の黙読が重要な意味を持つ。

(2) 徹頭徹尾作者の意図を読み取り、その意図通りに読むのが朗読。

(3) 結果的に表現に至るか、ただの音声化に終わるかに、解釈の深浅が大きく影響する。

(4) だからこそ作者の世界を正確に表現できるようにと、黙読百回をめざすのだ。

2. (1) 今年は太宰治生誕百年に当たるということで、太宰作品を朗読する機会が多い。

(2) そこで気づいたのだが、黙読を重ねていると、どこからか彼の声が聞こえてくるようで、太宰の作品の奥には「肉声」が潜んでいるのを感じずにいられない。

P1

[コメント]

NHKのアナウンサーであった山根基世さんのこの文章は、「朗読」の極致を伝えるもので有難い。「黙読百回」で作者の肉声が聞こえてくるようになる。その通りだと思う。

- 2009年10月12日 林明夫記 -